

2023年度 フードバンク八王子活動報告 —皆さまのご協力に感謝申し上げます—

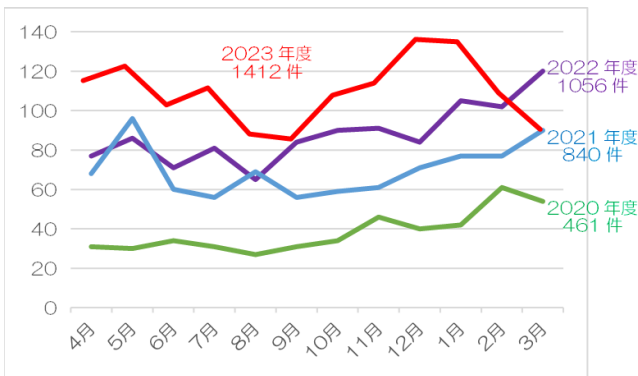


フードバンク八王子は、「八王子に食のセーフティーネットを！」をスローガンに、誰もが食に不安なく過ごせるまちを目指して活動しています。

2023年度、コロナが第5類に分類されましたが、まだ油断できない状況です。また物価高の影響は顕著に表れ、コロナ禍以来伸び続けているパントリーの利用者は2022年度に比べ1.5倍になりました。

4月1日の「こども食堂見本市」から始まった2023年度、「食で結ぶ孤独・孤立対策プラットフォーム」、「はちおうじっ子の新学期応援プロジェクト」などに取り組んでまいりました。フードバンク活動を通して「繋がり」の希薄さを実感することが多く、孤独・孤立を生まないためにどうしたらいいのか、こどもの時から人と人との繋がりの中で育てたいと、繋がりを生む場としてのこども食堂の応援も積極的にしてまいりました。皆さまのご支援とご協力に感謝申し上げ、活動のご報告をさせていただきます。

パントリー



パントリー利用者数の推移

フードバンク八王子では毎月2回のパントリー（食料配布）を行い、何らかの理由で食に困っている方に食品を提供しています。コロナ禍以来利用者は増え続け、最近では毎回60件以上の利用があり、2023年度は延べで1,406件の利用がありました。他団体の協力を得て、市内4か所でもパントリーを実施していますが、その数を合わせると1,793件になりました。コロナ禍以来毎年倍増しています。

初めてパントリーに来られた方は249件、その内、自立支援課を通しての利用が86件、ホームページなど

をみて直接来られた方が150件でした。「ネットでフードバンクと検索して見つけた」と言う方が殆どです。直接来られた方には必ず自立支援課に相談に行くように勧めています。フードバンクができることは、ほんの少しの食料を提供するだけ、専門知識をもった行政と連携をすることで、その方の自立に繋がりたいと思っています。現役世代の利用が70%を上回っています。病気などで就労ができなかったり、働いていても物価高の影響で足りなかったり、その理由は様々です。長く利用されていた方が「今回で卒業します。これからは自分で何とか頑張ってみます。これまでありがとうございました。」と言って卒業された方が何人かいます。私たちが一番嬉しい瞬間です。

パントリーで配布する食品は、セカンドハーベストジャパン様からのご提供を中心に、ファミリーマート様、八王子オーパ様、長房町会様、八王子市様、多摩養育園様などが実施されているフードドライブを通して市民の皆さまからのご寄付、八王子市仏教会様、パルブレッド様はじめ、市内の企業団体の皆さま、市民の皆さまからご寄付いただいた食品を使っています。また、足りない食品は、寄付金で購入させていただいております。たいへん多くの方々を支えられて実施しております。

こども食堂見本市

年度初日4月1日に、「こども食堂見本市」を3年ぶりに開催しました。コロナ禍で食堂開催ができない間に、市民の方との距離ができてしまったと感じていましたので、もう一度地域の居場所としてのこども食堂を紹介したくて開催しました。湯浅誠先生の「居場所」の講演と、各食堂からのエピソードなどを通して、「どんな子にも、人にもほっこりする居場所があったらいいな、そういう活動をもっと広めていきたい」と会場が一体感に包まれたあたたかい見本市になりました。また、参加された市民の皆さんとの交流だけでなく、久々にこども食堂同士の活発な交流もすることができました。



食で結ぶ孤独・孤立対策プラットフォーム

内閣府の「地域における孤独・孤立対策に関するNPO等の取組モデル調査」に参加し、行政を含めた市内の福祉団体、病院、こども食堂など18団体が参加するプラットフォーム作りに取り組みました。毎月1回定例会を開き、各団体の事例を紹介しあい、様々な年齢、環境に孤独孤立が存在していることを改めて実感する場となりました。また毎週火曜日の夜に「フードカフェ」を開始し、居場所づくりの活動も始めました。シ

シングルマザーの方がお子さんと一緒に参加されたり、一人暮らしの若い方などが毎回参加されたり、一緒に食事を作り、食べ、思い思いの時間を過ごす場となっています。

こども食堂への食品提供

コロナ禍前の2019年度には18か所だったこども食堂、2024年3月には40か所以上になりました。こどもたち、こども食堂を応援したいと、企業、団体、市民の皆さまからご寄付をいただいたお菓子や調味料、パスタなどを開催日に合わせて、提供しています。八王子市仏教会様、ハウスクリニック様、パルシステム東京様、東京都農林水産振興財団 東京農業アカデミー様、吉野家様、ヤクルト本社様、サヴァンシア フロマージュ&デイリージャパン株式会社様、Lepin 喜代志様など、たいへん多くの企業、団体の皆さま、市民の皆さまが継続的にご支援くださっています。

「むすびえ・こども食堂基金 2022 冬募集」の助成をいただき、前述の「こども食堂見本市」の開催の他、こども食堂に出向き、スタッフ同士が話す場づくりを実施しました。コロナ禍の影響でスタッフ同士のコミュニケーションがなかなか取れていなかったので、「お互いの気持ち、話すことの大切さを知る良い機会が得られた」との感想をいただきました。また、こどもたちにもっとこども食堂に気軽に来てほしいとパンフレット「こども食堂においてよ！」を作成し、学童クラブを中心に、市内の施設で配布しています。



はちおうじっ子の新学期応援プロジェクト

コロナが第5類になりましたので名称を変更して食品配送を継続しました。100世帯、155人（15歳以下のみ）のこどもたちに食品をお送りすることができました。

末日聖徒イエス・キリスト教会様、そしてたくさんの市民の皆さまからお預かりした食品を使わせていただき、皆さまのこどもたちを応援するあたたかいお気持ちと一緒にお届けしました。

様々なご支援に支えられて

コロナ禍以来、とても多くの方々がこども食堂やフードバンクに関心を寄せてくださり、たくさんのご支援をいただき、私達の活動を支えてくださっています。2023年度は延 570 件のご寄付をいただきました。

前出のセカンドハーベストジャパン様や八王子市仏教会様などの他にも、イケア立川様、RISE 様、西友建設様、ノースブックセンター様、横山町第2町会様、日本非常食推進機構様、桑都和太鼓連合会様、東京八王子西ロータリークラブ様、八王子法人会青年部会様、JA 八王子様、本田技研工業様、オイシックス様、イトウ製菓様、八王子市ごみ減量課様、防災課様などの企業団体の皆さま、そしてたくさんの市民の皆さまから継続して、ご寄付をいただいていることは本当に嬉しく、私たちの大きな力、励みになっています。フードドライブも企業や店舗だけでなく学校などでも実施していただき、若い世代へ活動を広める機会となっています。

フードバンクへの寄付が減っていることはニュース等でも取り上げられていますが、フードバンク八王子も例外ではありません。フードドライブでの寄付が減っているのは物価高の影響が大きいと感じます。また、今まで継続して寄付してくださっていた企業が廃業されたという残念な事例もありました。

2024 年度の活動

増え続けるパントリー利用者への対応、お米など配布する食品の確保は課題となっています。新たな寄付者の開拓、フードロスへの周知などにもより一層力を入れてまいります。

2023 年度に引続き内閣官房の「地域における孤独・孤立対策に関するNPO等の取組モデル調査事業」を受け、孤独孤立プラットフォームの形成に取り組んでまいります。「むすびえ・こども食堂基金 2024 年度春募集」の助成を受け、こども食堂の運営面からも応援していきたいと考えております。市民の方を対象としたイベントも計画しており、こども食堂やフードバンクの活動、孤独孤立の実態を知っていただく機会になるべく準備を進めております。

ぜひ皆さまのご支援、ご協力を、引き続き賜りますようよろしくお願い申し上げます。

一般社団法人フードバンク八王子

住所：〒192-0085 八王子市中町 2-9 ランメンビル 3F

☎：042-649-1769

✉：info@foodbank8.tokyo

